

## I 実践

### 1 実践テーマ

教育活動全体を通じた、生徒一人一人の自己肯定感や思いやりと他者理解の心の育成

### 2 実践内容

#### (1) あいさつ運動

この活動は、生活委員が中心となって、年間を通して、生徒と PTA の保護者が一緒にあいさつの啓発に努めるものである。毎月第1・第3月曜日の登校時に、各学級当番制で学年ごとに、正門・裏門・昇降口前に分かれて取り組んだ。また、11月には、「さわやかマナーアップ運動」として、学区の小学校、多賀高校と連携して実施した。本校の生徒だけでなく、小学生、高校生や地域の方々にも「おはようございます」と進んで挨拶する姿が見られた。生徒同士だけでなく、地域の人々と挨拶をすることで、豊かな人間関係を形成する機会となった。



#### (2) 特別支援学校との交流

第1学年の生徒が、毎年、特別支援学校の生徒と交流を行っている。各クラスで遊びを計画し、準備に取り組んだ。交流当日は、モグラたたき、ボウリング、輪投げや射的ゲームなどクラスごとにいくつかのブースを設置し、分かりやすいように手本を見せたり、一緒にゲームをしたりして笑顔で取り組む姿が見られた。相手の立場にたって考え、思いやりの気持ちをもって自主的に活動することの大切さを学ぶ交流となった。



#### (3) 校長賞の授与

本校では、「自ら感じ自ら考え実践する生徒、心豊かで思いやりのある生徒、心身ともにたくましい生徒」の3つの目標がある。それらを目指し、日々精進する生徒を称賛するために「校長賞」を授与している。「快いあいさつ」、「友達を思いやる行動」など、日常の生活の中で、教師が生徒の頑張りや良い行いを見つけ、推薦している。また、学校長より表彰されることで、自己肯定感が高まるよう実践した。



#### (4) Q-U アンケートや生活アンケートの実施

年に2回 Q-U アンケートを行っており、その結果を分析して、学級経営に生かしている。また、学校生活やいじめに関するアンケートを毎月実施し、生徒の悩みや不安を把握すると共に、面談を行うことで、生徒が安心して学校生活を送れるように、個に応じたきめ細やかな対応に繋がっている。

### (5) 互いのよさを認め合う機会の設定

#### ア メッセージカードの掲示

1, 2年生が, 総体に向けた3年生の先輩方に激励のメッセージを送る。また, 3年生からも, 新人戦に向けた1, 2年生の後輩に激励のメッセージを送り合う。そこには「きっと



勝てる」, 「みんなを信じて」という励ましの言葉や「用具の準備や片付けをありがとう」, 「みんなの応援はうれしかった」という感謝の気持ちが綴ってあった。

#### イ 「今日の MVP」 発表と掲示

毎日, 日直の生徒が級友のよい行いを紹介し, 各学級で称賛し合う活動である。帰りの会での「今日の MVP」発表は, 生徒が互いに認め合い, 所属感や自己有用感を感じることができ場となっている。

## 3 成果

学校生活の中で, 生徒同士が助け合いながら生活をしたり, 授業に取り組んだりする姿をよく見かける。常時実施しているあいさつ運動により, 元気な挨拶をする習慣を身に付けるだけでなく, 地域の方々とも交流を深め, よりよい関係を築くことに繋がった。また, 障害のある方々との交流を通して, 差別意識や偏見をもたずに相手を尊重する態度を育成することができた。さらに, 茨城県人権啓発推進センター主催の「人権メッセージ」に全校で取り組んだ。思いやりや命の尊さについて生徒一人一人の言葉で表現した。特に「いじめ」防止についての体験を含めた励ましのメッセージが多く, 生徒にとって身近な人権問題として考えることができた。

## II 今後の課題

人権教育は, 全ての教育活動の中で実践していくことが求められている。人権教育の啓発に向けたポスターや作文の応募, 幼稚園訪問など取り組んできたが, さらに各教科で人権について学ぶことができる題材があると考え。今後も課題に向けて校内研修に励み, 人権についての知識や理解を深められるよう研鑽を積み, 人権教育に関する指導力の向上を図りたい。

## III 人権コーナーの設置の様子

